

審 議 結 果

会 議 名	第5回川口市協働推進委員会
開 催 日 時	平成29年5月25日(木) 10時00分から11時00分
開 催 場 所	川口市議会 第3委員会室
出 席 者	<p>邊田委員長、高橋副委員長</p> <p>新井委員、上田委員、江口委員、清水委員、関根委員、足立委員</p> <p>森委員、前原委員、石橋委員、武井委員、矢野委員</p> <p>沢田市民生活部長、高山課長、買田課長補佐、吉川主査、作田主任</p> <p>秋谷主事</p>
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 審議事項</p> <p>ア 盛人大学学旨の改正について(諮問)に係る答申について</p> <p>(2) その他</p> <p>3 閉会</p>
公開/非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0名
会 議 資 料	<p>会議次第</p> <p>資料No.1 盛人大学学旨に係る各委員の提案について</p>
審 議 経 過	別紙のとおり
そ の 他	—

審 議 経 過

1 開会（10時00分）

- ・ 委員長挨拶
- ・ 事務局から出席委員数が委員定数の過半数に達しているため、川口市協働推進委員会規則第3条第2項の規定により本委員会が成立している旨を報告した。
- ・ 会議の傍聴希望者がいないことを事務局から報告した。
- ・ 事務局から配布資料（机上配布）について説明した。
- ・ 委員長が会議録署名人を選任した。

2 議事

(1) 審議事項について

ア 盛人大学学旨の改正について（諮問）に係る答申について

○委員長

それでは、審議事項のア盛人大学学旨の改正について（諮問）に係る答申について審議する。議事に入る前に確認だが、現在の委員で審議をできるのは、本日をもって最後となることから、今集まっている私達の審議の結果として市長に答申をしたいと考えているので、ご協力をお願いします。

まず、資料の説明とするが、今回の資料は、各委員からの学旨案の提案となっているので、提案者から説明をいただく。資料の順に説明をお願いします。意見交換は後ほど行うので、まずは説明のみをお願いします。なお、欠席の委員については、ここでは省略する。それでは資料に基づき1番目の委員からお願いします。

○委員

学旨については、「新たな自分に出会い街を創る」を提案させていただいた。来月、ちょ

うど盛人大学の入学許可が得られる歳となる。自分として、こういうことだったら盛人大学に入りたいということで考えた。人生半分少しを過ぎたあたりで、新たなことに臆病になって挑戦ができなくなってしまうが、盛人大学がやっていることを見ると新しい挑戦ができるということと、会議の中でも街に貢献してほしいということが盛人大学の趣旨であると伺ったことから、街を一緒に創ろうという思いを込めて学旨案を提案した。

○委員長

それでは、次の委員に説明をお願いします。

○委員

今までの会議中で発言の多かった、市民に分かりやすく伝えたいところや社会貢献につなげるということから「知識を深め、社会貢献を目指す」という提案をした。もう一つは自らが深めた知識を、地域密着しながら自分とともに周りを深めていくということで「地域と共に学びを深める」を提案した。

○委員長

次の委員に説明をお願いします。

○委員

学旨として「人、しごと、地域社会がともに輝く」を提案したが、しごとを辞書で引くと、一つの何かを作り出す、また成し遂げるための行動となっている。ビジネスオンリーではないということで、ボランティアも含まれている。総合計画の将来都市像もしごとはひらがなであり、このあたりを踏まえているのではないかと考える。提案は現在の学旨と川口市の将来都市像を照らし合わせて、合体させたものとしている。後の説明は、分かりやすくするもので参考にしてほしい。

○委員長

次の委員に説明をお願いします。

○委員

前回の会議、その前の説明でも、学旨を特に変えるということは強く感じられなかったと

私は思っている。あえて学旨を大幅に変える、全く内容を改めるということについては浮かばなかった。現在の学旨を発展的にというか、これを基にして、学旨をどの程度変えられるかということを考えて、「今と未来に向って、自分、地域、社会がともに成長する」という学旨を提案した。変わったところは、「今と未来に向って」という修飾語をつけたことで、あくまでも強い意味はないが、過去にとらわれず前向きにということである。「人」を「自分」に変えたのは、「人」は抽象的であることから本人自身が成長するという意味をこめて「自分」という言葉に変えた。

○委員長

次の委員に説明をお願いします。

○委員

「人、地域、社会をともに学び、成長し、礎を築く」を提案する。前回、盛人大学実行委員会実行委員長から説明をいただき、素晴らしかった。提案する「人、地域、社会」は元の学旨からのものであるが、私の考えでは、自分でもあり、相手でもあり、地域の人でもあり、コミュニティでもあるという考えで、サラリーマン、主婦だった人が盛人大学で学び、地域や川口も学び成長した後に、地域社会に根付いて社会貢献をしてほしいという願いを込めて提案した。

○委員長

次の委員に説明をお願いします。

○委員

学旨は「50歳からの社会貢献を応援する」で提案した。理由は盛人大学が協働推進条例に基づく事業であることや総合計画に盛り込まれたこと、市民大学との差を明確にすることなどである。いずれにしても社会貢献がキーワードである。もともと20歳の成人式と差別化を図って若いものの手本になるというところを強調されていたこともあり、50歳になって社会貢献をして手本となるようにするということを踏まえて提案した。

○委員長

出席委員からの説明は以上であるが、事務局から何かあるか。

○事務局

まず、欠席の委員から事前にご意見をいただいているので資料に基づき説明する。その委員から必要な箇所を読むよう指示があったため、それに基づき説明する。

「本日の委員会を私用にて欠席する事は、非常に残念なことで申し訳なくお詫び申し上げます。

今回の答申「盛人大学」の学旨（一般的には教旨<キョウシ>と云われています。）見直しの可否を含めた件で意見を申し上げます。

第三回の委員会では、学旨見直し議論で「開校10年が経過し、自治基本条例や協働推進条例の制定をはじめ、総合計画の将来都市像も新しくなった。さらに行政評価においても趣旨・目的から見直していくよう指摘を受けていることから、ご検討いただきたい。」としています。

ただ、この中で、「行政評価においても趣旨・目的から見直していくよう指摘を受けている」とありますが、盛人大学各コース実行委員ほぼ全員が「実態を調査・把握せずに書類審査しているから実態とは異なる結論となっている。」と憤慨しております。100%おかしいとは申し上げませんが、一般的に歪んだ見方が現実的に存在する事を自戒しなければなりません。

今回の学旨として「人、地域、社会がともに成長する」についての内容のみに限定していますが、続いて「現代社会に大きな転換をもたらす科学技術の発達、グローバル化の進行、長寿社会は、私たちの生き方、社会、未来を急速に変えつつあります。新しい可能性や希望が目の前に広がっていますが、新しい課題もあります。それらと向き合うために、地域や地球上の誰と、どのようにつながり、コミュニティや社会を再構築し、次世代へ環境を継承してゆくべきかを真剣に考えます。50歳をこえて社会を支えている私たちであるからこそ、今本来のために、人、地域、社会がともに成長しながら、新しい自分、川口、地域社会を築いていきます。」そして、アドミッションポリシー（入学者の受入の方針）カリキュラムポ

リシー（教育課程編成・実施の方針）サーティフィケート（卒業証書の発行の方針）となっています。

次に、主として学旨の制定に関わった早稲田大学早田宰教授の備忘録（平成 25 年度「地域デザインコース」卒業生文集より抜粋）として、教育機関には「学旨」が必要です。基本理念を銘記することを最初に事務局と相談しました。その草稿にあたり以下の5つのことを考えました。

第一は、新しい時代にふさわしい「シチズンシップ教育」の考え方を明確化することです。

第二に、「外に開かれた学び」です。外とは自分を取りまく外界すべてです。

第三に、「社会へつながる学び」です。

第四に、「人・地域・社会の相互作用」です。

第五に、成人の特性を活かして「人が成長する」カリキュラムです。これらの基本となる考え方を踏まえ、「人・地域・社会が共に成長する」という学旨に整えました。さらに、アドミッションポリシー（入学者の受け入れの方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実践の方針）、サーティフィケートポリシー（修了証の発行の方針）を定めました。これによって将来に発展していくための礎がなんとかできたのではと思っています。

私は、現状の学旨を熟読し、草稿を出された早田先生の備忘録を読み返す中で、どこをどの様に変える必要性があり、社会的背景の大きな変動があるのか考えましたが見出せませんでした。

『「人・地域・社会が共に成長する」という学旨に整えました。』とし、さらに『3つのポリシー』を定める事により、【礎】が出来たとしています。

すなわち「人・地域・社会が共に成長する」だけが、学旨ではないことを示唆しています。

結論は、私は、全文を変更する必然性が出てくるまで継続すべきと主張します。

それでも、他の要因などで、変更することが必要条件ならば、全く別に「他の学識経験者」に草案を作って頂く事を提案いたします。

理由は、現委員各位が、現場を知ることなく、過去2回のみ議論で、理念やあるべき姿

などを理解するには非常に困難です。これは、現草稿者、当時の川口市事務局、他の関係者に失礼となると思慮いたします。」以上である。

そして、最後に事務局への意見となっていたため、資料を各委員に配布した。これで、欠席の委員を含めて、提案に関する意見は以上である。

つづいて、事務局からは、本日の委員会について確認する。今回の諮問は、「盛人大学学旨について見直し、新しい学旨を定めることについて」であり、諮問理由にもあるとおり、市長から新しい学旨について諮問されたものであることから、答申では新しい学旨を答申することとなる。各委員の提案の中から、意見交換をしながら全会一致で1案を選定したいが、場合によっては多数意見を尊重することも考えている。また、会議で2～3案が結論となった場合には、最終的に正副委員長の一任とし、答申案を作成することも検討したいがいかか。

○委員長

みなさん、よろしいか。事務局に対し意見はあるか。

(意見なし)

それでは、これより意見交換により、答申案を決定していく。まず、先ほどの各委員の案の説明があったが、提案内容への理解を深めるため、提案に対する質疑応答、次に、自薦、他薦をしながら全員の意見を聞き、最後に自由に意見交換をしながら意見のとりまとめをしていく。

それでは、まずは、各委員の提案に対する質問等はあるか。

○委員長

個人的な意見ではあるが、学旨を変えないという意見は漠然としており、各委員の学旨を見ると社会貢献という意見が多いので、盛人大学で学んだものを活かして各地域で社会貢献をして欲しいということが趣旨であることから、盛り込みたいと考えるがいかかか。

○委員

主旨は見直しの指摘を受けてということではあるけども、川口市は合併したこと、中核市

になることもある。そして、市民大学との差ということが記憶に残っている。こういったことから50歳というキーワードが大切であると考えます。

○委員長

年齢のことは受講の要件には入っているが学旨には書いていない。

○副委員長

見て分かるものということが大事だと考える。50歳からということが基本であるが、それが分かって、他は何をするのかということが学旨に入り、その説明があったほうが良い。言葉として50歳と社会貢献、これが入ると分かりやすい。

○委員長

他に意見はないか。学旨をより分かりやすく変えたからといって、盛人大学の活動に規制を加えるものではないと考える。ただ、市としては市民大学と盛人大学の重複についてどのように棲み分けていくのかというところもあるのではないかと。

それでは、時計回りで各委員の意見をいただきたい。

○委員

「50歳からの」というものが入ると分かりやすい。私が市民として学旨を見て入りたく入りたくないかだけではないと思うが、人をひきつけるものが学旨にはあったほうが良いと考える。50歳を超え社会貢献をしたいけど分からない人には、「50歳からの社会貢献を応援する」という提案は分かりやすいと感じた。分かりやすいといことは大事で、社会貢献をしたい人に盛人大学の事が伝わりやすいと感じた。

○委員

ぱっと見て分かりやすいことが一番大事と感じた。50歳という年齢についても良いと考える。見ていく中で盛人大学はこういうものなんだと分かるので学旨は分かりやすく伝えるものが良いと考える。

○委員

提案を見て、どれも理にかなっていると考えます。その提案の中に、知識、社会貢献、未来、

地域社会、その地域社会とともに学ぶ、50歳からの社会貢献とある。しかし、学旨はもう少し抽象的なところを残さないといけない。50歳という言葉は条件であるので学旨に入れるか検討の余地があるが、社会貢献や地域などの言葉は盛人大学の目的として明白なものであることから入ってよいのではないかと考える。実際、盛人大学を始めた頃、50歳限定ではない。30歳以上の特例があった。そういったことも考える必要はある。条件は変わることがあり、学旨は決めると固定化されることとなるので、変更ができる条件を作っておかないと盛人大学の運営に疑問を感じているところがあって、50歳は条件として書く必要があるのではないかと思う。

○副委員長

今年度50歳になる人が入学できると聞いているが、特例があるということは聞いていないが、どうなっているのか。

○委員

実は特例がある。今回はない。特例がなくなったのは、昨年度からである。

○副委員長

特例を認めたのは昨年度だけか。

○委員

いや、一昨年度まで特例を認めていた。

○副委員長

それでは、盛人大学と市民大学がごちゃごちゃで分かりにくいのではないか。

○委員

最初は、盛人式から始まった。盛人式は50歳だった、そこで盛人大学が存在した。私がいた地域デザインでは30代40代がいて、授業を行っていた。ビジネスコースも同様であったと思う。特例が存在していたのは確かである。今後特例がよいかどうかは検討すべきである。

○副委員長

初めて聞いた話である。

○委員

現実にはあったことである。

○委員長

確かに、中身を知らない人間が、この議論をするというのはどうかというのは、こういうところで分かる部分もあるかもしれない。

○副委員長

今後、特例を認める認めないで議論の内容は変わりそうである。

○委員長

盛人大学は50歳ということを前提としてスタートしたものであるから、そこはどうか。

○委員

条件は50歳からである。

○副委員長

特例を認めたのは誰か。

○委員

私が来る前からなので、おそらく最初からである。おそらく、30、40の人にも門戸を開けようという意志があったのではないか。

○委員長

カリキュラム的に市民大学にないところもあったからという理由ではないか。

○副委員長

特例をどうするかによるが、「人、しごと、地域社会がともに輝く」の中で50歳からというのが良いと感じた。特例があると入れられない。

○委員

私は、注釈を入れることで対応することを考えた。

○委員

協働推進条例が制定され、それに途中から市の予算が入るようになった。学旨の改正に市の意向が大きな影響があるが、事務局は協働推進の立場からも、盛人大学の運営補助をしている立場からも、どのように変えれば納得をするのか。そのような案はないのか。どのように変えたらよいと考えているのか。変える必要はないと結論付けたら、それでも良いのか。

○委員

10年経ったこと、合併もしたこと、中核市になること、60万人になること、そのような中で、どのような盛人大学を目指すのかということがあったのではないかと。

○事務局

協働推進委員会は、皆様からご意見をいただくもので、事務局が案を出してしまうと成り立たなくなってしまう。行政評価においても、市民大学と盛人大学の差がないということになっているが、学旨を変えることで市民大学との差を強調できるということで、盛人大学にとって前向きに考えていただき、ご意見をいただきたいと考えている。

○委員

委員から出た新しい考え、社会貢献ということは、従来の学旨と比べて具体的であると同時に言葉として訴えるものはある。社会貢献と学旨を結びつけるのはどのようにしたらよいか。

○委員

文章の中に入れればよい。

○委員

学旨には50歳を入れるのはよくないという話があったが、入れたら分かりやすいという意見もあった。私としては分かりやすいと考えている。それを解決するために副題を入れるようにしてはどうか。学旨を変えないなどの、今までの意見も尊重できる。

○委員

盛人大学のメンバーにいろいろな思いがある中で、なかなか提案をしにくいものがあり、

学旨の案を提案しなかった。盛人の会があって、いつの間にか盛人大学になったプロセスが分からないが、盛人という言葉は50歳、そして50歳で盛人式をしようということがあり、そこからもう一度社会のために、街のために何とかしていこうという主旨があると思う。特例で30歳ということもあるが、その中でボランティア団体はたくさんあり10代から活躍できるところもある。その中で盛人大学に予算がでていっている中で、そろそろ盛人になったときに頑張ろうじゃないかということかと思う。そういう意味では、50歳ということの盛人という言葉でも良いかもしれない。盛人が活躍できる社会貢献といったようなことでもよいかもしれない。そこが、本来のスタートなのかもしれない。一方で盛人大学の人の思いも良く分かる。

○委員

私は、盛人大学については直接の担当ではなかったが行政評価外部評価委員会の委員をしている。行政評価では盛人大学と市民大学の違いを挙げたものの、盛人大学と市民大学の差はなにかということである。その一点で、同じようなことをしているなら、終わりでいいじゃないか、そのほうが、費用がかからないという議論である。そのうえで、主旨目的から見直そうということではあるが、これは、盛人大学をなくそうということではなく、盛人大学を存続させるには市民大学との差を明確にする必要があるという議論だったと思う。先ほど、行政案はないかということだったが、自治基本条例、協働推進条例の制定に加え、総合計画の将来都市像も変わった。そうした中で盛人大学や市民大学の立ち位置はどうなったのであろうか。それを見てから学旨を考えたほうが、違いを明確にし、存続価値も高められると考える。

○委員長

私が聞いたのは、社会経験を積んできた年齢の盛人のみなさんが、知識を活用していくもの。

○委員

どちらかというと、市民大学は自分のための勉強で、盛人大学は自分の知識を活かそうと

いう主旨だと思う。そういったものが学旨に載れば差を明確にできると思う。

○事務局

自治基本条例の中では、市民と市の協働の第5条に「市民は、自治を実現するために、市と協働することができる。」、同第2項「市は、市民から協働を求められたときは、これに対し当該市民と誠実に協議するものとする。」、同第3項「協働を推進するために必要な事項は、別に条例で定める。」ということで、さらに川口市協働推進条例というものが加わり、市民が市民として幸せに暮らせる地域社会を実現するために協働する担い手の育成の場であるということを表す学旨というものが、盛人大学の学旨として明確になるのではないかと考えている。

○委員長

次の委員から意見をお願いします。

○委員

一番そうだと思ったのは市民大学と盛人大学の差別化を図ること、それは行政評価において盛人大学を残そうとする意図であると思うので、その主旨にあった学旨を考えればよいと考える。私の提案の「50歳からの社会貢献を応援する」は確かに具体的なものではあるが、学旨はもう少しスローガンのようなものが必要なのであろうか、であれば、このままでは良くないとも考える。

○委員

市の目的に沿ったという話があったので、都市の将来像が出ていたところで「市民・行政が協働する“自立的で推進力のあるまち”」に該当する。その内容をみると50歳または盛人というキーワードは学旨に分かりやすくいけないといけない。学旨は変えるにしても変えないにしても副題などで入れればよく、方法論になるが市民大学と盛人大学のすみ分けができればよいと考える。

○副委員長

案として、皆さんの良い意見を取り入れてしまえばよいと考える。盛人と入れて、括弧し

て50歳からのとして、「人、しごと、地域社会がともに輝く」という提案に繋げてしまえばよいと考える。変える変えないではなく10年経って市民大学との差を出さないといけないということだから、盛人とは何かを載せていくことが必要、「盛人（50歳）から人、しごと、地域社会がともに輝く」などでどうだろうか。

○委員

良いところ取りというか、みなさんの意見は違っても同じようなことを言っていると思う。思いは素晴らしいと思う。ただ、文章は難しいので、良いところ取りして、明確、明快、分かりやすい学旨にしたらよいと思った。良い方向に向かおうという気持ちは分かるので、そういうところを具体的に入れたらよいと思う。

○委員

学旨、初めて見る方が、盛人大学がこういうことを目指しているということが文章から分かるというものが望ましいと考える。市民大学との違いをぱっと見て分かるもの、盛人大学は市との協働で地域社会を良くしていこうというものであるので、そういった意味合いが含まれる文章が良いと考える。

○委員

50歳は条件ということであるが、学旨はいろいろあろうかと思う。ほんわかと包んで表現するものもあれば、ストレートに言うものもある。私はストレートに言ってもよいのではないかと思う。そして、委員長、副委員長に一任となるよりは、この場で決めたほうが良いと思う。

○委員長

一通り、意見は聞いた。私は、「人、しごと、地域社会がともに輝く」という提案はメインとしてよいと思う。

○副委員長

「しごと」がひらがなになっていて意味があつてよいのではないか。

○委員

皆さんの意見を聞くと、知識を社会に活かすということだと思ふ。社会で使ってくださいということだと思ふ。その意見を追加したい。

○委員

キーワードは盛人もしくは50歳、もう一つは社会貢献だと思ふがいかがか。

○委員長

サブタイトルをつけるという話もありだと思ふ。「人、しごと、地域社会がともに輝く」は、まるまる現行のものをひっくりかした言い方でもある。それにサブタイトルとして「盛人からの社会貢献」などの表現を加えれば分かりやすいのではないか。

○委員

それに加えて、盛人の説明、盛人式があつたことを書いてあげればよいと思ふ。

○委員長

他にありますか。

○委員

コピーはなんだろうと思わせることも一つの手法である。具体的すぎても、題名だけである。キャッチコピーは、何かと思わせ、中を見させる必要がある。

○委員長

「人、しごと、地域社会がともに輝く」でどうでしょうか。

(賛同の意見あり)

○委員長

それではサブタイトルはどうしましょうか。

○委員

「50歳からの社会貢献のために」でどうだろうか。

○委員

盛人という言葉を使ったのは50歳という表現を避けたのではないか。

○委員

50歳からやろうとすると40歳から準備が必要である。私が受講したコースも40代から始めた人ばかりである。そのため特例を残したいと思う。あくまでも特例ではある。

○委員

「盛人から」と入れると、特例ができなくなるのか。

○委員

「のために」となっているので問題ない。

○委員長

「人、しごと、地域社会がともに輝く～盛人による社会貢献のために～」ということはどうだろうか。

(異議なしの声)

○委員

今までの会議で、一番良い議論ができたのではないか。

○委員長

それでは、よろしいか。この案を答申案とさせていただく。事務局、いかがでしょうか。

○事務局

それでは確認させていただきます。「人、しごと、地域社会がともに輝く～盛人による社会貢献のために～」でよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

○委員長

(2) その他について事務局から願います。

○事務局

その他について、本日の結果をもとに、答申文を正副委員長からご意見を伺いながら作成する。答申の日は6月28日を予定し、各委員には答申文を事前に報告する。答申の状況はホームページにて確認をお願いします。

その後、この答申を参考に市長が盛人大学の学旨と、その説明書きを決定することにな

る。皆様からいただいた貴重な意見を反映できるよう努めていく。その他は以上である。

○委員長

これで議長の任を降り、進行を事務局に戻す。

3 閉会（11時00分）

- ・ 副委員長挨拶

○事務局

これをもって、第5回委員会を終了する。

会議の内容については、以上のとおりです。

平成29年5月25日

川口市協働推進委員会委員長

(邊田委員長署名)

川口市協働推進委員会委員

(関根委員署名)